

# 学校選択制の現状に関する調査・分析結果について（西区）【概要版】

H27年度の制度導入時に小学校で学校選択制を利用した児童保護者がR3年度に初めて中学校入学時に学校選択制を利用するタイミングを捉えて今後必要な改善を行うための一材料として実施

## 保護者・地域団体関係者を対象としたアンケート及び小中学校対象の調査

視点	分析
①学校選択制の満足度はどうか	【保護者】受入枠が小さい、兄弟枠の設置、選択制により小学校を選んだ場合にその通学区域中学校に進学できるようにしてほしい、との意見がみられるが、制度には肯定的。結果の通知時期を早めにしてほしいとの意見もある。 【地域】制度に対する受けとめは、メリット、デメリットの両面がある。
②子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができているか	【保護者】通学区域内外どちらの学校に入学した者も、意見を述べ、学校を選択できているととらえている割合が高い。
③子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったか	【保護者】肯定的回答の割合が高い一方で「わからない」との回答も一定数存在。 【学校】「どちらでもない」との回答割合が高く、学校選択制と関係があるととらえているとは言えない。
④特色ある学校づくりが進んだか	【保護者】通学区域外を選んだ者では、肯定的回答が8割と高い。一方、通学区域を選んだ者では、学校選択制によるものかについて、肯定的回答、否定的回答、「わからない」が3分の1ずつとなっている。 【学校】全体的には「どちらでもない」との回答が多く、特色ある学校づくりの進展と選択制には関係があるととらえていないと思われる。
⑤開かれた学校づくりが進んだか	【保護者】通学区域内外を問わず、選択制により学校の取組み及び情報公開が充実したととらえている。一方、2～3割の保護者は「わからない」と回答。 【地域】小学校については5割が肯定的回答だが、中学校については肯定的回答が4分の1であり、小学校と中学校で違いがみられる。 【学校】選択制と取組みの充実については関係があると考えていないが、情報発信については一定充実してきたととらえていると思われる。

視点	分析
⑥児童生徒の通学の安全に課題が生じていないか	<p>【保護者】 【学校】 小学校において課題があるととらえている。</p> <p>【保護者】 通学区域外を選んだ者は、通学距離が長くなる、交通量が多いところを通学するためか、通学路の安全や通学距離、通学時間について事前に確認している割合が高くなっている。</p>
⑦学校と地域、保護者の連携に課題が生じていないか	<p>【保護者】 学校行事、PTA活動、地域行事に対して、多くの者は、参加しているもしくは参加意向を持っている。</p> <p>【地域】 「地域の繋がりが薄くなっている」と考えている者が3分の2だが、選択制導入による影響については半数が「変わらない」と考えている。</p> <p>【学校】 選択制導入による学校、地域、保護者の連携についても「変わらない」との回答が多い。</p>
⑧区や学校が提供する情報ではなく、風評等による学校の選択がなされていないか	<p>【保護者】 通学区域外を選んだ新中学1年生の保護者では7割があると考えており、通学区域を選んだ新中学1年生及び新小学1年生の保護者の同回答3割を大きく上回っている。</p>
⑨学校選択制による児童生徒数の増減で、教育的課題が生じていないか	<p>【小学校】 児童数の減少により複式学級を設置する必要があり教育活動に支障が生じる、児童数の増加により単学級で児童数が定数上限の学級となる等、課題と受けとめられている学校が一部にある。</p> <p>【小中学校】 それ以外の小・中学校においては児童生徒数の増減が少なく、課題が生じていないと考えていると思われる。</p>
まとめ	<p>西区の学校選択制においては、受入枠の少なさから希望しても入学できない学校と選択制による校区外への流出により入学者数が減少する学校が存在することや、交通量が多い地域であるため通学範囲が広がることにより児童生徒の通学の安全確保に課題が生じるという側面があるが、学校選択制による地域との連携への影響については大きいとは言えず、保護者の満足度は高い制度となっている。</p>